

再チャレンジプログラム 問題 第1回

令和元年6月29日

【問題1】 民法

Aは、強制執行を逃れようと考え、Bと通謀して、AがBに土地甲をBに譲渡したように見せかけ、その所有権移転登記をB名義にした。その後、Bは、土地甲の登記が自己にあることを奇貨として、全く事情を知らないCに対し、土地甲を売却し、その移転登記を完了した。

Aは、Cに対して、どのような主張をすると考えられるか。また、Cからの反論も踏まえて、その主張は認められるか。

【問題2】 民法

Aは、Bに対し、令和元年5月1日、土地甲を売却したが、所有権移転登記手続をとらなかった。そして、Aは、Cに対し、同年6月1日、土地甲を売却し、所有権移転登記手続をした。

Bは、Cに対し、どのような主張をすると考えられるか。また、Cからの反論も踏まえて、その主張は認められるか。